

## 道徳科学習指導案

- 1 **日時** 令和元年10月11日(金) 第2校時(9:50~10:35)
- 2 **学年** 第6学年 12名(男子4名, 女子8名 合計12名)
- 3 **主題名** 「寛容の心」(内容項目B(11)相互理解, 寛容)
- 4 **ねらい** たけしが学んだ大切なことを考えることを通して, 相手の過ちなどに対しても, 自分にも同様のことがあることに気付かせ, 謙虚な心, 広い心で受け止め, 適切に対処し, 相手を許していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
- 5 **資料名** 「あやまってすむことじゃない」 出典(ゆたかな心: 光文書院)

### 6 主題設定の理由

○ 本主題は, 内容項目B(11)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 謙虚な心を持ち, 広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」を基に設定したものである。

私たち人間は, 自分の立場を守るため, つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり, 相手を許すことができなかったりするなど, 自己本位に陥りやすい弱さをもっている。しかし, 相手の過ちなどに対しても, 自分にも同様なことがあるとしてとらえ, 謙虚な心で相手を許すことで, よりよい人間関係を築き, 豊かな社会をつくっていくことができる。

高学年の段階においては, 相手とのよりよい人間関係を築くために, 相手の過ちに対して広い心で受け止め, 相手を許すことが必要だと理解しているにもかかわらず, 自分本意な考えや自己保身から, 相手を許すことができないことがある。このようなことから, この時期の子供達に, 自分を謙虚に見る大切さに気付かせ, 相手の過ちなどに対しても自分にもあることとして広い心で受け止めたり, 相手を許したりする意欲と態度を育てることをねらいとして, 本主題を設定した。

○ 本学級の児童は, 相手が謝ってきたら表面的には許している。しかし, 本心から謝罪を素直に受け入れていなかったり, 自分の判断ではなく, 周囲の意見に流されたりすることがある。

事前に行った意識調査の結果は次の通りである。(実施12名 7月19日)

質問項目	◎許す	○どちらかと言えば許す	△どちらかと言えば許さない	×許さない
相手が失敗をして, 自分にとって嫌なことが起こった時, 相手から「ごめんなさい。」と言われたら, あなたはすぐに許せますか。	8人	3人	1人	0人
<b>理由(許すと答えた人)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直に話してくれたら許せる。(3名)</li> <li>・許さなかったら相手の人の気持ちがすっきりしなかったり, 遊んだりするのが気まずい。(3名)</li> <li>・許さないと言われたら, 自分だったら悲しくて仲良くできない。</li> <li>・失敗は誰でもする。相手が反省して謝ってくれたら嬉しい。</li> </ul> <b>(どちらかと言えば許すと答えた人)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗は自分もする。</li> <li>・相手が謝るのであれば, いつまでも根に持ってはいけない。</li> <li>・相手が謝ってくれたので許す。</li> </ul> <b>(どちらかの言えば許しないと答えた人)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごめんなさいと言われても嫌な気持ちはすぐにはなくならない。</li> </ul>				

アンケートによると、本学級の児童は、相手が謝ってきたら自分は許せると思っている。だからこそ、心の底から本当に相手を許しているかを立ち止まって考えさせたい。

- 本教材は、楽しみにしていた外食先が店員の過ちで予約されていないことが分かり、気を落とす主人公のたけしが、心の中で「謝ってすむことじゃない。」と憤る。しかし、「謝ってすむことじゃない。」と言われた自分の経験を思い出したことから店員の立場を理解し、許すことができたというという内容である。

導入では、子供達に「わざとではないとしても、相手が行ったことに対してすごく強く腹が立って、相手を許せなかった経験があるか。」と投げかけ、子供達に自分の経験を想起させることで、本時の学習の見通しを持たせる。

展開では、まず、「あやまってすむことじゃない。」と思っているたけしの心情を考えさせ、あやまってもらっても、状況は変わらず許せないというたけしの怒りの心情を捉える。次に、たけしが以前、「一緒に映画を観に行く。」という約束を忘れてしまい、弟に「あやまってすむことではない。」と言われた時の気持ちを考えさせることで、ミスをした店員の立場に立って考えさせ、誰だってわざとミスをするわけではないことや、誤っても許してもらえなかったことのつらさに気付かせる。

中心発問では、「人の失敗を許すってことも、大切なんだなあと思ったよ。」と言ったたけしの言葉の、「人の失敗を許す」という箇所を白抜きにして、どのような言葉が入るかを問う。児童一人一人に教材を通して学んだこと、大切だと思ったことを自分の言葉で表現させることによって、相手の立場を理解し、相手を許すことの大切さを考えさせたい。その後、教師の体験談として、友人とトラブルになった時のことを話し、人の失敗を許すことはなぜ大事なのか、人の失敗を許すということは、相手との関係を築く上でとても重要なことだと実感させたい。視点を定める補助発問や多面的・多角的に考えさせる補助発問などを複数準備し、児童の反応に応じて投げかけることで児童の思考や認識を深めていく。また、見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために、視点を明確にして対話活動を取り入れていく。

振り返りでは、学習を通して新たに気付いたことを書かせ、学びを深めさせていく。

## 7 大会主題【ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～】との関連

少人数であることを生かし、一人一人が自分の考えや思いを表現する場を十分に確保する。こうして、自分事として考えたり、自分とは違う意見について検討したりする機会を充実させ、協同的に学びを深める学習を重ねることで、自らの生き方を考え、未来を拓く児童の育成を目指していく。

## 8 研究主題【主体的・対話的に学びを深める児童生徒の育成～道徳科における児童の思考を促す発問の工夫を通して～】との関連

中心発問	補助発問	
「～が大切なんだと思ったよ。」の～にはどんな言葉が入ると思いますか。	○ もし、いつまでも許さなかったらどうなると思いますか。	【視点を定める】
	○ たけし君の話と先生の話で共通していることは何だと思いますか。	【多面的・多角的に考えさせる】

## 9 準備物

資料場面絵，ワークシート

	学習活動	主な発問と児童の心の動き (主な発問(○) 中心発問(◎) 予想される児童の反応(・))	指導上の留意事項と評価 (留意事項(◇)評価(・)(評価方法))
導入	1 日常生活を想起し、本時の学習の見通しを持つ。	○ 「わざとではないとしても、相手が行ったことに対してすごく強く腹が立って、相手を許せなかった経験」がありますか。	◇ 子供達自身の経験を想起させることで、本時の学習への見通しを持たせる。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ① 「わすれたなんて、あやまってすむことじゃないよ・・・。」と心の中でつぶやいたたけしの気持ちを考える。 ② 弟に「あやまってすむことじゃないよ。」と言われた時のたけしの気持ちを考える。 ③ 「～が大切なんだと思ったよ。」の～にはどんな言葉が入るかを考える。 ○ 教師の体験談を聞く。	○ 「わすれたなんて、あやまってすむことじゃないよ・・・。」と心の中でつぶやいたたけしはどのようなことを考えているでしょう。 ・こっちの予約はどうなるんだ。腹が立つ。 ・あやまってもらっても、こっちの状況は変わらない。 ・あやまれば、いいという態度は嫌だ。 ○ 弟に「あやまってすむことじゃないよ。」と言われた時、たけしはどのようなことを考えたのでしょう。 ・自分もわざと間違えたわけではない。 ・自分だって同じような間違いをしてしまったことがある。 ・何とか弟に許してもらいたい。 ◎ 「～が大切なんだと思ったよ。」の～にはどんな言葉が入ると思いますか。 ・相手のミスにいつまでも腹を立ててはいけないこと。 ・気持ちを切り替えて、次に何をしなければいけないかを考えること。 ・あやまっている人を、許さないのではなく、許すという気持ち。 <div data-bbox="662 1736 1037 2049" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【視点を変える】</b> 許さなかった時のことを考えさせ、相手の過ちを広い心で許すことの大切さに気付かせる。</p> </div> 【補】もし、いつまでも許さなかったらどうなると	◇ あやまってもらっても状況は何も変わらない。許せないというたけしの憤る心情やレストランでの状況を押さえる。 <div data-bbox="1276 862 1452 896" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教材との対話</div> ◇ 自分も店員と同じようなミスをしたことがあると感じたたけしの心情を押さえる。 <div data-bbox="1276 1164 1452 1198" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教材との対話</div> ◇ ワークシートを活用し自分の考えを明らかにさせる。 ◇ 「相手を許すことの重要性」を考えさせる。 <div data-bbox="1252 1556 1452 1590" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">子供同士の対話</div> ・ <b>相手を許すという気持ちが大切だということに気付いている。</b> (発言、ワークシート) ◇ 教師が友達とのトラブルで相手を広い心で許すことができた体験を話し相手を広い心で許すことの大切さに気付かせる。

		<p>思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつまでも喧嘩したままで、何の解決にもならない。</li> <li>・お互い仲直りしたくてもできない。</li> <li>・ずっと気まずい。嫌な気持ちのまま、これから先ずっと過ごさなくてはならない。</li> </ul> <p><b>【補】</b>たけし君の話と先生の話で共通していることは何だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの話も友達とトラブルになった後、相手と仲直りできた。</li> <li>・どちらも、相手の立場に立って謝ったことで相手とよりよい関係が気付いている。</li> <li>・いつまでも意地を張らず、相手の謝罪を受け入れることで、お互いにさらに仲良くなれている。</li> </ul>	<p><b>【多面的・多角的に考えさせる】</b></p> <p>2つの話の共通点を考えさせることによって相手の過ちを広い心で許すことの大切さに気付かせる。</p>
	<p><b>3 相手を広い心で許すことの大切さについて考える。</b></p>	<p>○ 広い心で相手を許すことは、なぜ大切なのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い心で相手のあやまちを許す気持ちをもつことで相手と良い関係が築ける。</li> <li>・謙虚な心で自分と異なる意見や立場を受け入れることは、相手と信頼関係を築く。</li> <li>・自分だって間違いをする。そんな時、素直に相手にあやまることが、相手にも嫌な気持ちにさせない大切なこと。</li> </ul>	<p>◇ 児童から出た「子供語」を使ってまとめる。</p> <p>◇ 一人一人が自分の考えや思いを出し合い、交流することで、相手を広い心で許すことの大切さについて考えを深めさせる。</p>
<p>振り返り</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 今日、新たに学んだことや先生の話聞いて気付いたこと、思ったことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達があやまったら、相手の立場に立って許そう。</li> <li>・自分がミスをして相手に迷惑をかけたなら素直にあやまろう。</li> </ul>	<p>◇ ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について新たに発見したことなど自分の考えをまとめさせる。</p> <p><b>自己との対話</b></p>

11 板書計画

広い心  
あやまつてすむことじゃない

場面絵①  
レストランで  
店員が謝っている場面

たけし あやまつてすむことじゃないよ  
・こっちの予約はどうなるんだ。腹が立つ。  
・あやまつてもらっても、こっちの状況は変わらない。  
・あやまれば、いいという態度は嫌だ。

店員 大変申し訳ありません

弟 あやまつてすむことじゃないよ  
・自分もわざと間違えたわけではない。  
・自分だって同じような間違いをしてしまったことがある。  
・何とか弟に許してもらいたい。

たけし 弟の言った言葉が胸につきささった

場面絵②  
弟との約束を破ったことを思い出している場面

「〜が大切なんだと思ったよ。」の〜にはどんな言葉が入ると  
思いますか。

**広い心で相手を許す気持ち**

相手と信頼関係を築く。  
相手にも嫌な気持ちにさせない大切な事。  
相手と良い関係が築ける。

- ・相手のミスにいつまでも腹を立ててはいけない。
- ・気持ちを切り替えて、次に何をしなければいけないかを考えること。
- ・あやまつている人を、許さないのではなく、許すという気持ち。

12 ワークシート

あやまつてすむことじゃない  
名前 ( )

○ 「〜が大切なんだと思ったよ。」の〜にはどんな言葉が入ると  
思いますか。

が大切なんだと思ったよ。

○ 今日の学習で学んだことや考えたことを書きましょう。

### 13 教材分析

	子供の思考の流れ	主	対
<b>導入</b> 課題設定がある場合も (学習の構えを持つ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の失敗を許せなかったことがあるかな。</li> </ul>	○	
<b>教材を知る</b> (登場人物の状況と心情の確認)	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員のミスで、たけしと家族は食事ができない。どうになってしまうのかな。</li> </ul>	○	
<b>問題場面の確認</b> ：課題意識を持つ (課題の焦点化) ◎ 「～が大切なんだと思ったよ。」の～にはどんな言葉が入るとおもいますか。 [分]		○	
<b>個としての考えをもつ</b> (登場人物への自我関与) ※ワークシートへの記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手のミスにいつまでも腹を立てないこと。</li> <li>気持ちを切り替えて、次に何をしなければいけないかを考えること。</li> <li>あやまっている人を、許さないのではなく、許すという気持ち。</li> </ul>	●	
<b>他者の考えとの出会い</b> (自分の考えとの共通点と相違点) ※意見の交流		●	
<b>よりよい生き方に向けた議論</b> (多面的・多角的視点の獲得) 【補】もし、いつまでも許さなかったらどうなると思いますか。  【補】 たけし君の話と先生の話で共通していることは何だと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつまでも喧嘩したままで、何の解決にもならない。</li> <li>お互い仲直りしたくてもできない。</li> <li>ずっと気まずい。嫌な気持ちのまま、これから先ずっと過ごさなくてはならない。</li> <li>どちらの話も友達とトラブルになった後、相手と仲直りできた。</li> <li>どちらも、相手の立場に立って謝ったことで相手とよりよい関係が気付いている</li> <li>いつまでも意地を張らず、相手の謝罪を受け入れることで、お互いにさらに仲良くなれている。</li> </ul>		●
<b>学級としてのゴール</b> (課題の解決) ○ 広い心で相手を許す気持ちを持つことはなぜ大切なのでしょう。 [分]	<ul style="list-style-type: none"> <li>広い心で相手のあやまちを許す気持ちをもつことで相手と良い関係が築けるから。</li> <li>謙虚な心で自分と異なる意見や立場を受け入れることは、相手と信頼関係を築くから。</li> <li>自分だって間違いをする。素直に相手にあやまることで、相手にも嫌な気持ちにさせないから。</li> </ul>		●
<b>子供が自分の言葉で価値を再定義する</b> (新たな自己の生き方への思い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を許すことが大切。</li> <li>自分も素直に謝ることが大切。</li> </ul>	●	
<b>終末</b> (新たな学びをじっくりと受けとめる) ※振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達があやまったら、相手の立場に立って考え、許そう。</li> <li>自分がミスをして相手に迷惑をかけたなら素直にあやまろう。</li> </ul>	○	

<発問の立ち位置・4区分> (東京学芸大学 永田繁雄教授)

[共]：「共感的」な発問, [分]：「分析的」な発問, [投]：「投影的」な発問, [批]：「批判的」な発問